

シンポジウム 「今さらテレビ？ 今こそテレビ？」

日時： 2017年1月28日（土）14:00～17:00

場所： 武蔵大学 8号館 8604 教室（練馬区豊玉上 1-26-1）www.musashi.ac.jp

西武池袋線・江古田駅、都営大江戸線・新江古田、西武有楽町線・新桜台から各徒歩 6 分

主催： 武蔵大学 MMS 研究会（番組評価サイト Quae）

連絡先：武蔵大学山下研究室 ry2k@cc.musashi.ac.jp または 03-5984-3833(電話&FAX)

参加無料、事前受付不要、終了後、懇親会（実費）を予定。

総合司会 石山玲子（武蔵大学 非常勤講師）

<第 1 部>

1980 年代の「ニューメディア」以降のテレビを取り巻くメディアの変遷を振り返り、現在のテレビのあり方を考える。メディアの技術的発展がメディアコンテンツや人々のメディア利用に及ぼす影響について考察する。

（1）「メディアの進化は”ユーザーファースト”が起点 ～オンデマンド&ピンポイント、そして・・・～」 鈴木祐司（次世代メディア研究所代表、元NHK放送文化研究所主任研究員）

（2）「『5時に夢中!』はなぜ話題の番組になったのか」 大川貴史(TOKYO MX『5時に夢中』プロデューサー)

（3）「近未来のメディア環境」 西田宗千佳（メディア先端技術分野ジャーナリスト）

—15時半ごろから休憩・15分—

<第 2 部>

武蔵大学 MMS 研究会の最新の調査は何を語るか。また、学生たちは何を考えメディアと接しているのか。

（4）現代人はテレビとインターネットをどのように使い分けているか—2016・Quae 調査

山下玲子（武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）

（5）ソーシャルビューイングが及ぼすテレビ番組の視聴者への影響と効果についての実験的検討

松本紗綾（武蔵大学社会学部メディア社会学科 4 年）

<第3部>

(6) 討論

テレビがメディアの王様になっていた時代は終わりつつあり、新しい世界が Google によって開かれた。猛威を振るった視聴率は次第に意味がなくなり、番組内容（メディアのコンテンツ）と使用メディア（テレビのセット、スマートフォン、パソコン端末など）を分離して考えなければならない時代になっている。コンテンツが良ければいろいろなメディアで見られる可能性がある一方、内容によってはなじまないメディアもある。今後のメディアとコンテンツの問題についてフロアも交えて討論。

コーディネーター 中橋雄（武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）

パネリスト 鈴木祐司＋西田宗千佳＋山下玲子＋松本紗綾

フロアの方々

終わりの挨拶

小玉美意子（武蔵大学名誉教授、MMS 研究会前会長）

(17 時終了予定)